

はじめに

情報社会学会会員の皆様

情報社会学会誌 Vol15, No1 をお届けいたします。本年は、コロナ禍に見舞われいつもとは大きく異なる1年を過ごしました。デジタル技術やインターネット、テレワークが大きく見直されましたが個別の技術や事象だけでなく、情報社会としての学の見直しや確立が強く望まれる時代になった事を強く自覚しました。

本号では、3本の原著論文、8本の研究ノートを掲載いたします。いずれも、萌芽性、新規性、さらなる研究への期待があり、情報社会学への貢献は大きいと考えます。

原著論文「情報社会学の基礎概念と社会システム」は、情報社会学を言語論的分析哲学と関係付けることによって、社会と人間に関する存在論と認識論、つまり「社会の哲学」の観点から、情報社会学の基礎概念を再度検討したユニークな着眼点を持つ論文です。最近の分析哲学の研究から、ジョン・サールの『社会的世界の制作』(2018)を選んで、一般システム論に基づくシステムの諸類型と、言語論的な社会的実在論が両立することを示しました。情報社会学の研究として新たな知見を開いた研究で評価できると考えます。

原著論文「メディアに対する信頼意識と情報行動との関係性に関する考察」は、市民が社会の発展と改善に積極的に参加し、責任と役割を担う仕組みの設計が望まれるという視点から意識調査を行い「論理的思考」「他者意見尊重」「他者信頼」「自己中心」の4つの潜在的因子を抽出し分析を実施しました。特に「論理的思考」と命名した因子の重要性を示しソーシャルメディアを活用した有効な意思疎通の仕組みを明らかにした点は評価できると考えます。今後のさらなる研究が期待されます。

原著論文「ブリッジング・リーダーシップの学習と模倣によるコミュニティ形成の有効性」は、非接触型コミュニケーションへの転換モデルとしてのクラウドファンディングの研究で、ブリッジング・リーダーシップという異なるコミュニティを橋渡しすることで、新しいコミュニティ形成のためのリーダーシップの概念を元に論証しました。農林水産業の新たな付加価値を生み出す可能性を示した有用な結果を導いていると考えます。今後のさらなる研究が期待されます。

研究ノート「VUCA化する社会」を見据えた「情報社会学」教育のR・デザイン」は、Volatility(多様性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の観点から「情報社会学教育」のR・デザインを試みた一つの試論という着眼点を持つ研究です。柔軟な視野と学際的な見地からの学問領域の見直しおよび、文理融合を通したリベラルアーツの視点と情報社会学を情報社会が可能とした環境を活用した問題解決の学として考察しています。教育の観点から今後の研究/実践が期待されます。

研究ノート「製薬企業の研究開発の意義と研究成果が企業の利益に及ぼす影響に関する研究」は、研究開発投資が収益につながり、生産性を向上させるばかりでなく、応用研究や製品開発でない技術や知識、ノウハウの蓄積のための科学研究が企業の収益や競争力に及ぼす影響を検討し、国内製薬企業の医薬品研究開発投資が企業の研究成果につながり、さらに研究成果として獲得した企業のイノベーションの力が企業の利益につながるかを検証した研究で学術的価値があると考えます。

研究ノート「オープンデータが利用者に与える価値と変容プロセス:川崎シビックパワーバトルの参加者インタビューを例に」は、オープンデータにより市民が意思決定や合意形成を行うことが可

能になるのではないかという考え方を提起し、オープンデータの利用者への調査により利用者がデータにどのような価値を見出すか、そして、データが利用者にとってどのような変容をもたらすのかを研究し、地域課題解決に向けて市民がオープンデータを利用することの意義や課題を明らかにした研究です。今後の研究の発展に期待します。

研究ノート「VUCAに対応できる人材」を育成するための「情報社会学」教育のリデザイン」は、既存の情報社会学・社会情報学教育のあり方を検討した上で、VUCA ワールドに対応できる人材育成を目的とした情報社会学教育のリデザインのあり方について研究した論文で、興味深い実践的視点を提供していると思います。今後の研究/実践が期待されます。

研究ノート「高校および小・中学校における遠隔教育政策の研究」は、遠隔教育政策過程を明らかにするため規制改革推進会議の数次にわたる提言、文部科学省の報告書、および規制改革推進会議などの議事録を主たる分析対象とし研究した論文です。コロナ禍における遠隔教育の急速な導入が実施された現在研究の意義は高いと思います。今後のさらなる研究を期待します。

研究ノート「ネットいじめに関する要因分析 -2018年度の全国の高校生のアンケート調査から-」は、高校生を対象に行ったアンケートから、調査時点から過去1年以内にインターネットを通じたネットいじめの被害経験を受けた生徒が、どのような特徴があるか分析をした研究です。情報社会では大きな問題として捉えられており今後のさらなる研究を期待します。

研究ノート「日本企業における業務 IT システム活用の問題研究 -業務 IT システム活性化モデルの導出-」は、日本企業の多くを占める製造業に着目し、業務 IT システムの活用状況を考察、分析した研究です。製造業に多く見られる組織構造の課題及び、生産性、新規事業創生の低さに着目し、業務 IT システムの不活用との関係性に関して考察を行っています。日本の IT システムの問題の根幹に迫る研究で今後の研究に期待します。

研究ノート「ビットセキュリティズ：証券決済システム再設計コンセプト」は、既存の枠組みや法制度にとらわれずにデジタル技術による証券決済システムの役割を再定義し、新しい証券決済システムとしての証券決済インフラ再設計コンセプトを提案した研究で、今後のさらなる研究を期待します。

多くの研究が投稿され、多岐にわたる研究分野の成果が報告されました。今後のさらなる研究の発展に期待します。会員皆様の積極的な研究活動に期待すると同時に、情報社会学に関する多彩なご投稿をお待ちしています。

2020年12月26日

情報社会学会  
会長・編集委員長  
大橋 正和